

◇ 令和 6 年 1 1 月 1 9 日 (火)

◇ 9 : 4 5 ~ 1 2 : 4 5

◇ 横山小学校 会議室

授業参観 9 : 4 5 ~ 1 0 : 2 0

給食試食あり



◇ 学校運営の状況報告 大塚 優 校長

- 1 1 月 9 日に行われた横山小学校 1 5 0 周年記念式典は、多くの地域の方々に支えられて記念行事を終えることができた。感謝したい。
- 昨年度来からの学校教育を取り巻く環境の変化について話をしたい。(映像=ウクライナで使用されている犬型ロボット、日本でも能登半島地震で自衛隊が使用) 近年の AI の進歩はすごい。
- 「映像=Unkow.AI」というアプリの紹介。学校で出た宿題を画像で送るとスキャンし、AI が解答してくれる。このアプリを授業で使っている学校もある。また、次期学習指導要領の改訂で、AI の活用内容が話題になっているらしい。漢字が書けることや計算が解けることは機械でできることであり、学力観が転換されてきている。これから大切なことは「知識・技能」の使い方である。使い方を知っている子どもと、このような AI があることを知らない子どもとの能力差は大きくなる。
- 昨年度より重点的に取り組んできたことは、変化の大きい時代に対応できる子どもであり、求められる学力求められる人材の変化に対応した教育である。
- 人が社会や未来を創る。AI に負けない「学びの能力」を身につける。そのために、「学校としてつきたい力」の共有を目指している。「自分を振り返る力」「対話する力」「課題に気づく力」の 3 つである。これらの学びの力を、教科を超えた、あらゆる教育活動で意識していくことで、骨太な学びの力をもった人間に育てたい。
- 人口減少や少子化の時代に「少数精鋭 一騎当千の強者」に育てることが、学校としてできることであり、考えるべきことである。特に学童期は、学びのフィジカル (体験的、体感的、探究的) や、強い目的意識、やり抜く胆力を育て、協力する楽しさを体感し、多彩な学びの方法を獲得することが大事である。
- カリキュラム・マネジメントの実施状況。今年度は、「対話する力」をつけることに取り組んでいる。各学級担任が、自分はこんな学級にしたい。こんな授業をしたいという目標をもって進め、PDCA のサイクルを活用し、一学期の評価に基づいた次のステップを決めて取り組んでいる。山形大学名誉教授中井義時先生 (山形県に探究をもってきた方) から年数回お願いして学校に来ていただき指導を受けている。

- 行事の教科化では、田植えや稲刈りなどの農業体験を教科に組み入れて実施してきた。(5年生) 地域の方からの情報提供を学校にいただき、消毒材を撒くときに手製のボートを作って消毒している様子とか、カルガモを田んぼに放しての除草の様子なども見る事ができた。4年生は、社会福祉協議会と連携して「こぼえちゃ広場」で高齢者に手品を見せたりして交流。6年生や3年生は、横山城・武藤家の歴史について学びながら座禅を行ったりしてきた。6年生の修学旅行では、1日目に南三陸町で震災や復興の状況について学習し、2日目は、仙台班別バス旅を実施。条件は、観光スポット2箇所をかならず回る事。1箇所は青葉城本丸会館とする。昼食はご当地飯を食べる。13時にベニーランド正門で入場券を配布する。自分たちでバス時間や乗り場を探し、バインダーに挟んだ旅行の地図や葉をつくり目的地を目指してきた。
- 情報と情報を結んで概念化された知識になる。見方や考え方を深め、深い学びに変化する。今回の修学旅行は、そのような学習になった。
- 次期学習指導要領改訂にあたっている北海道大学教授河村秀憲さんによれば、10年後、仕事は「意思決定」と「作業」に分解され、このうち「作業」に関しては相当部分がAIにとって代わられる。「自分で何をするか決める仕事」は残り、「人から言われてやる仕事」はAIにとって代わられる。多様な児童が存在する教室の中で、「だれ一人取り残さない」は可能か。通常授業でも様々な学習形態が同時進行すると言っている。
- 地域とつながる「おらほの学校」。PTAよこやまサミットや地域よこやまサミットの実施。学校を思う人たちの集まりでとても楽しい時間を過ごす事ができた。
- 次年度に向けて、行事をますます子ども主体の授業としていきたい。また横山小の防災について考え、子どもたちの災害時の食料等の備蓄を考えていきたい。災害時の学校施設開放エリアに関する情報を地域の方々と共有しておくことが大切だと考えている。
- 少数精鋭、一騎当千の強者に育てるために、力強く生きていくための資質・能力を高める「探究の子」をめざし、そのために志を高める。

◀紙面による状況▶

- なかよしになるためのアンケート結果

5月実施 いじめ認知件数 40件

10月実施 いじめ認知件数 32件



◇ 学校運営の状況報告について 委員の方より

- ・校長先生の先見的視点が素晴らしい。先日、東京の桜丘中学校の校長を務めた西郷孝彦さんの講話を聞いた。その中で、「理論ありき」ではなく、目の前の子どもたちの特性を踏まえながら、必要のあるものは導入し、必要のないものを減らしていった。制服や校則の廃止。生徒会が決議したことの実施など学校の改革をしてきた方のような方だった。その方も、これからの学校に何を求めるのか。ユーチューブで学校の先生より塾講師のほうが分かりやすく教えている。自分は、これからの学校は、つながりを大切に、社会性を養う場で、多様性を尊重した関係づくりをめざす場と思った。

- ・本当に校長先生が先を見据えて取り組んでいることはありがたい。自分の仕事のなかで経験していることを今の子どもたちに必要な力として大事にいただいていることがありがたい。
- ・修学旅行の話聞いて、自分も来年行きたいところがあり今から様々なことを調べている。それが楽しいし、行ったときに役立つと思う。よい経験の機会を子どもたちに与えてくれている。
- ・避難所として、その機能について町ともしっかり共有することが必要である。町の初動マニュアルとそれに合わせて学校が連携していくことは今後の課題であり検討が必要。地域にとっても大切なこと。
- ・子どもの様子を見て子どもが生き生きとしていた。探究の授業がうまくいっていると感じた。子どもにとって五感を使った教育が今後も変わらず大切だと感じた。
- ・自分は、母親として新校舎移転の時にこの校舎に入った、廊下や階段を見てその歳月を感じた。
- ・近年の情報機器や AI の発達について、いつも校長先生の説明で驚かされる。自分は、SNS 等への負の意識が強くなったように感じる。使い方によっては大変効率的であり、もっと、自分自身の理解が必要と思った。
- ・話に出てきたアプリ等をいかに自分の味方にできるか、子どもにとって大切なことになる。
- ・自分の子は 5 年生なので、修学旅行の話聞いてワクワクしてきた。



◇ 地域（ふるさと）に思いを寄せる子どもの育成について

- ・三川町の社会科副読本を見て、ふるさとのことがよくまとめられていると感じた。小学校時代の学びだけにしないで、成長しても再確認できれば三川町の理解につながる。
- ・三川町や時代に応じた生活の発展経過が理解できる。
- ・教科書と一緒に捨てられてしまうと副読本も残らない。是非、残していただければ役立つ。
- ・三川町のこれだけは知ってほしいと思って考えてきたことが、地形・自然・文化・歴史などだったが、この副読本にすべて記載されていた。小学校時代には地域とのつながりを大切にしてほしい。中学校になったら産業や町の発展に寄与していることについて知ってほしい。
- ・ふるさとに思いをよせることで、将来的に三川に戻って生活することをねらうのか、県外にいても三川町のことを常に思ってふるさと納税などをおこなったりすることをねらうのかで違いが出てくる。
- ・三川に住むようになって食文化がすごいと感じる。地域に残る昔ながらの食についてもっと知りたい。

- ・小学校時代には、町の目にする風景を大切にしてほしい。また、祭りや文化財についてアニメ化することも小学生にとって、ふるさと学習として効果的と思う。
- ・コロナ禍で削減されてしまった「三川音頭」が見られなくなったことがとてもさみしい。以前、大人も子どもも同じことをやったことは記憶として鮮明に残っている。
- ・コロナ禍で地域の行事の削減が増えている。地域行事への参加者が少なくなりつつあることが残念。学校の伝承クラブなどでぜひ残していきたい。
- ・将来のことを考え、世界とつながることができるように、英語の会話能力を高める町であってほしい。